

# 2025年度 初年次地域キャリアデザインワークショップ

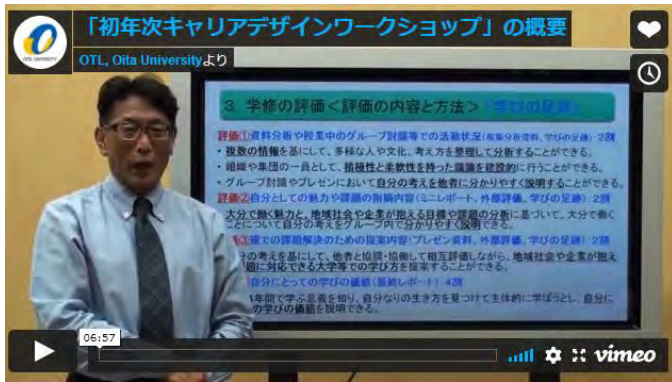
大学生として生活を始めるにあたり、「大学での学び方」「大学で学ぶ意義」を考えます。同時に自分の人生設計の考え方「キャリアデザイン」についても学びます。具体的には「大分」をテーマに、「大分で就職すること」「地域社会の創造」について、社会人を交えたグループワークで学びます。

- 受講生 大分大学（2年生7人、1年生12人）  
日本文理大学（1年生2人）
- 学生アシスタント（SA）  
大分大学（3年生3人 2年生1人）

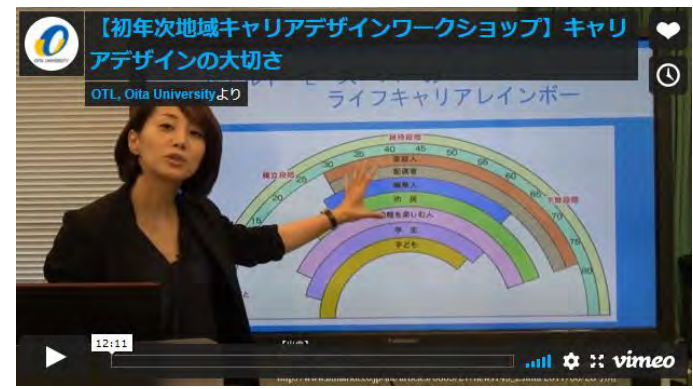
- 指導教員 大分大学 牧野 治敏  
岩本 光生
- 別府大学 小池 楠男
- 日本文理大学 鈴木 照夫
- 大分県立看護科学大学 定金 香里

## ■オンデマンドで実施（第1～4回）

【第1回】授業ガイダンス・自己紹介作成



【第2回】ビデオ視聴・レポート作成：「キャリアデザインの大切さ」



【第3回】ビデオ視聴・レポート作成：「職場はあなたを求めています」



【第4回】「キャリアデザインの大切さ」と「職場はあなたを求めています」を統合して：レポート作成

## ■合同授業（第5～15回詳細は次ページ以降）

- 6/28(土) 9:30～17:00 大分大学教養教育棟
- 6/29(日) 9:30～17:00 大分大学教養教育棟
- 7/6(日) 9:30～14:00 大分大学教養教育棟

## ■合同授業終了後

【最終レポート】「よりよい社会の一員として活躍するための大学での学び」

## 【6 / 28(土) 1日目の合同学習】

事前に収集した各種情報をもとに、ディベートを実施することにより、大分で就職することの魅力と課題を検討し整理する。

- 授業実施協力企業 株式会社オーイーシー  
(社会人指導者) 株式会社デンケン  
トヨタカローラ大分株式会社  
大分県



昨年度に引き続き対面で実施。今年度は4グループ形成。牧野教授より授業のガイダンスを実施。



2大学の学生とSAも含め25人過去最多の参加者でアイスブレイク・自己紹介を実施しました。



次に、ディベートについてルール・実施方法を学びました。



午後から、休日にもかかわらず、社会人指導者5名にも授業に参加していただきました。



県内就職を肯定する理由、否定する理由、それぞれについて検討し、論理を組み立てました。



命題の肯定側、否定側に分かれて、両方の立場からディベートを実施。社会人の皆さんからも講評をいただきました。

## 【6／29（日）2日目の合同学習】

「大分で描く私たちのキャリアデザイン」としてキャリアデザインの考え方を学びました。ライフキャリアとワークキャリアの2つの観点と、長期・中期・短期の時間軸で、個人ごとにイベントを整理、その上で、グループごとにモデルケースを作成しました。前日に検討した大分県で就職することの魅力と課題と合わせ、翌週のプレゼンテーションの準備をしました。



2日目の進め方を別府大学小池教授から説明。キャリアデザインを大学で検討する必要性について学びました。



ライフキャリアとワークキャリアの2つの観点と長期→中期→短期で個人ごとにイベントをキャリアデザインシートに整理しました。



若手社会人の皆さん全員から、ご自身の体験をもとに、キャリアデザインシート作成へのアドバイスをいただきました。



各グループごとに、自分たちが描くキャリアを検討しモデルケースを作成しました。



最終プレゼンテーションに対する期待を若手社会人から、それぞれコメントいただきました。



最後に、小池教授と牧野教授より、翌週のプレゼンテーションまでの段取りについて、説明がありました。

## 【7/6（日）3日目の合同学習】

大分での就職についてまとめたプレゼンテーションをとおして、大学での学びのあり方を提案して意見交換を行う。



本日の進め方について、牧野教授、小池教授から説明。「大分の学生は大分で就職する」というテーマについて、各グループから10分で発表です。



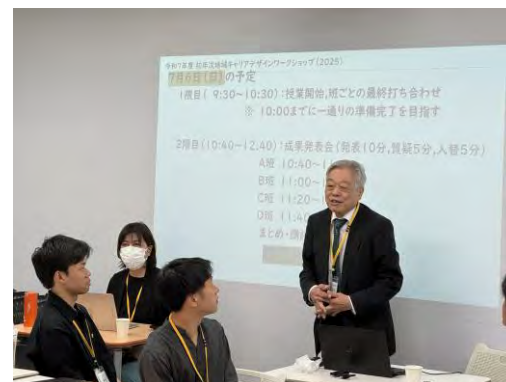
前週からオンライン上でプレゼンテーションを作成しました。本日はそれをもとにプレゼンを実施、各グループそれぞれキャリアモデルが違い、興味深いものとなりました。



若手社会人や教員から、各グループの発表に対して、質問を実施、また意見交換をしました。



発表終了後、社会人の皆様から講評・アドバイスをいただきました。今後の大学での学びについて参考になるお話でした。



各大学の指導教員からも、最終発表を受けて、今後の学生の皆さんに向けたコメントがありました。



最後に、授業の進行をしっかりとバックアップしたSAの4人からもコメントをもらいました。学生・社会人・教員の皆様、大変お疲れ様でした。